

## GPS 安全性要約書

この GPS 安全性要約書は、化学物質を製造する企業の社会的責務として、化学産業界のグローバル製品戦略（Global Product Strategy :GPS）に基づいて当社が製造する化学製品のリスク評価結果に関する情報の概要を一般社会に提供するものです。

この文書は、ヒトの健康や環境への影響あるいはリスク評価の詳細等の専門的な情報を提供するものではありません。また、安全データシート(SDS)、または化学品安全性報告書(REACH CSR)などのリスク評価書に代わる文書として作成されたものではありません。記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。

### 物質名（SUBSTANCE NAME）

#### 2,2'-ビス(4-ヒドロキシフェニル)プロパン（ビスフェノールA）

(4-[2-(4-hydroxyphenyl)propan-2-yl]phenol, CAS No. 80-05-7)

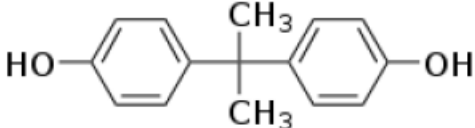
### 物質の概要（GENERAL STATEMENT）

ビスフェノールAは、僅かなフェノール臭がする白色の固体である。エポキシ樹脂、ポリカーボネート樹脂の原料として使用される他に、合成樹脂の安定剤、酸化防止剤等として使用される。

皮膚刺激、重篤な眼の損傷、アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ、遺伝性疾患のおそれの疑い、単回ばく露による呼吸器への刺激および眠気またはめまいのおそれ、長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（肝臓、呼吸器、腎臓、腸）の障害のおそれがある。水生生物に毒性があるが、比較的生分解しやすく、生物蓄積性は低いと考えられる。

製造時のサンプリング等では適切な保護マスク、保護手袋の着用が推奨される。また、環境生物への影響を最小化するために、漏洩防止策を講じるとともに、定期的な監視や設備の保守点検が推奨される。

### 化学的特性（CHEMICAL IDENTITY）

項目	内容
一般名	ビスフェノールA
商品名	ビスフェノールA
化学名	4-[2-(4-hydroxyphenyl)propan-2-yl]phenol (IUPAC名:2,2-bis(4-hydroxyphenyl)propane)
CAS番号	80-05-7
その他の番号	官報公示整理番号(化審法, 安衛法)(4)-123 EC番号 201-245-8
分子式 構造式	C <sub>15</sub> H <sub>16</sub> O <sub>2</sub> 
その他の情報	特になし

出典、備考 三菱ケミカル(株)発行のSDS 3項 参照

## 使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

当社製品の主な用途 エポキシ樹脂、ポリカーボネート樹脂の原料として使用される他、合成樹脂の安定剤、酸化防止剤等

## 物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

僅かなフェノール臭がする白色の固体である。

外観(物理的状态)	固体
色	白色
臭気	僅かなフェノール臭
比重(相対密度)	1.195
融点/沸点	150 °C以上 155 °C以下/220 °C 4 mmHg
可燃性/引火性	情報なし
引火点	227 °C 密閉式
燃焼または 爆発上下限界	情報なし
自己発火温度	510 °C以上 570 °C以下
蒸気圧	4E-8 mmHg 25 °C
分子量	228.29
水溶解性	120 mg/L以上 300 mg/L 以下
オクタノール-水分配係数	LogKow : 3.32
出典・備考	三菱ケミカル(株)発行のSDS 9項 参照

## ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

皮膚刺激、重篤な眼の損傷、アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ、遺伝性疾患のおそれの疑い、単回ばく露による呼吸器への刺激および眠気またはめまいのおそれ、長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(肝臓、呼吸器、腎臓、腸)の障害のおそれがある。

影響評価	結果 (GHS <sup>*1</sup> 危険有害性分類)
急性毒性(経口)	区分外 <sup>*2</sup>
急性毒性(吸入-気体)	分類対象外 <sup>*3</sup>
(吸入-蒸気)	分類できない <sup>*4</sup>
(吸入-粉塵/ミスト)	分類できない
急性毒性(経皮)	区分外
皮膚腐食性/刺激性	皮膚刺激(区分2)
眼に対する重篤な損傷 性/刺激性	重篤な眼の損傷(区分1)
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ(区分1)
生殖細胞変異原性	遺伝性疾患のおそれの疑い(区分2)
発がん性	区分外

<b>生殖毒性</b> <b>特定標的臓器</b> <b>(単回ばく露)</b> <b>特定標的臓器</b> <b>(反復ばく露)</b> <b>吸引性呼吸器有害性</b> <b>出典・備考</b>	<b>分類できない</b> <b>呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれ(区分3(気道刺激性、麻酔作用))</b> <b>長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(肝臓、呼吸器、腎臓、腸)の障害のおそれ(区分2(肝臓、呼吸器、腎臓、腸))</b> <b>分類できない</b> <b>三菱ケミカル(株)発行のSDS 2, 11項 参照</b> <small>*1 GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals. 世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。  <small>*2 区分外: 分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行ってみたいところGHSで規定する危険有害性区分において一番低い区分とする十分な証拠が認められなかった場合。  <small>*3 分類対象外: GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていないもの  <small>*4 分類できない: 分類の判断を行うためのデータが全く、または分類するに十分な程度に得られなかった場合。</small> </small> </small> </small>
---	--

## 環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

水生生物に毒性があるが、比較的生分解しやすく、生物蓄積性は低いと考えられる。

<b>影響評価</b> <b>水生環境有害性(急性)</b> <b>水生環境有害性(慢性)</b> <b>出典・備考</b>	<b>結果(GHS危険有害性分類)</b> <b>水生生物に毒性(区分2)</b> <b>長期継続的影響により水生生物に毒性(区分2)</b> <b>三菱ケミカル(株)発行のSDS 12項 参照</b>
<b>環境運命・動態</b> <b>環境中の移行性</b> <b>生分解性</b> <b>生物蓄積性</b> <b>PBT/vPvBの結論</b>  <b>出典・備考</b>	<b>結果</b> <b>水系からの揮発性は低く、土壌への吸着性も高くないと考えられる。</b> <b>易分解</b> <b>生物蓄積性は低いと考えられる。</b> <b>PBT*、vPvB**に該当しない。</b> <small>*PBT: Persistent, bioaccumulative and toxic (環境中に残留性し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する)  <small>**vPvB: very Persistent and very Bioaccumulative(環境中に非常に残留性しやすく、非常に高い生物蓄積性を有する)  <b>三菱ケミカル(株)発行のSDS 12項 参照</b> </small> </small>

## ばく露 (EXPOSURE)

消費者用途はないため、作業ばく露、環境ばく露が主体となる。

<b>詳細</b> <b>作業ばく露</b>  <b>消費者ばく露</b> <b>環境ばく露</b>	<b>No.</b> <b>1-1</b>  <b>2-1</b> <b>3-1</b>	<b>当社製品の主な用途におけるばく露の可能性(ばく露経路)</b> <b>主にサンプリング作業時や移し変え作業時(吸入や皮膚・眼との接触)。</b> <b>但し、当該物質は閉鎖系プロセスで製造されるので、作業ばく露の可能性は極めて低い。</b>  <b>消費者用途はないため消費者へのばく露の可能性は極めて低い。</b> <b>主にサンプリング作業時や移し変え作業時(主に水系)。</b> <b>但し、当該物質は閉鎖系プロセスで製造されるので、環境への放出の可</b>
--	--	---

**注意事項** 能性は極めて低い。また当該物質は常温及び常圧で固体であり、環境へ放出された場合は水系中に分配されると考えられるが、水系中では分解することが予想される。

他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施してください。

## 推奨するリスク管理措置（RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS）

吸入や皮膚、目への接触による健康への影響を最小化するために、サンプリング作業時などの際は、吸入経路や経皮経路でのばく露を防止することが必要である。そのために、適切な保護マスク、および当該物質が浸透しない材料の衣類・保護手袋の着用が推奨される。

また、環境生物への影響を最小化するために、漏洩防止策を講じるとともに、定期的な監視や設備の保守点検が推奨される。

詳細	No.	当社リスク評価結果に基づく推奨する管理措置
対作業者ばく露	1-1	サンプリング作業時などの際は、適切な保護マスク、および当該物質が浸透しない材料の衣類・保護手袋を着用する。作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をする。
対消費者ばく露	2-1	なし
対環境ばく露	3-1	排ガス・排水処理設備を設置し、漏洩などの際には環境に影響を与えるおそれがあるので、漏洩防止などの対策を講じるとともに、日常管理、取り扱いに注意を払う。
その他取扱注意事項		なし
注意事項		通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、三菱ケミカル(株)発行のSDSの4, 5, 6, 7, 8, 13, 14項を参照して下さい。

(注)No.は「ばく露」記載箇所にある、それぞれの「ばく露の可能性」に対する管理措置を記載している。

## 政府機関のレビュー状況（STATE AGENCY REVIEW）

評価書	レビュー状況
OECD HPV	<a href="http://webnet.oecd.org/Hpv/UI/SIDS_Details.aspx?id=0CC2A528-418F-4F99-A5F1-3FEB4198A640">http://webnet.oecd.org/Hpv/UI/SIDS_Details.aspx?id=0CC2A528-418F-4F99-A5F1-3FEB4198A640</a>
NITE 化学物質の初期リスク評価書	<a href="http://www.safe.nite.go.jp/risk/files/pdf_hyoukasyo/029riskdoc.pdf">http://www.safe.nite.go.jp/risk/files/pdf_hyoukasyo/029riskdoc.pdf</a>
環境省 化学物質の環境リスク初期評価	<a href="http://www.env.go.jp/chemi/report/h16-01/pdf/chap01/02_2_15.pdf">http://www.env.go.jp/chemi/report/h16-01/pdf/chap01/02_2_15.pdf</a>
REACH	<a href="http://apps.echa.europa.eu/registered/registered-sub.aspx">http://apps.echa.europa.eu/registered/registered-sub.aspx</a>

## 法規制情報／ラベル情報 (REGULATORY INFORMATION / LABELLING INFORMATION)

### 主な法規制情報

法律	規制状況
国連分類	情報なし
国連番号	情報なし

化審法  
化管法

優先評価化学物質、旧第2、3種監視化学物質  
第一種指定化学物質(特定第一種指定化学物質を除く)

ラベル情報  
絵表示またはシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報

危険

- ・ 皮膚刺激
- ・ 重篤な眼の損傷
- ・ アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- ・ 呼吸器への刺激のおそれ
- ・ 眠気またはめまいのおそれ
- ・ 遺伝性疾患のおそれの疑い
- ・ 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(肝臓、呼吸器、腎臓、腸)の障害のおそれ
- ・ 水生生物に毒性
- ・ 長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書き

[安全対策]

- ・ 使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・ 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・ 取り扱い後は手をよく洗うこと。
- ・ 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・ 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・ 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- ・ 環境への放出を避けること。

[応急処置]

- ・ 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
- ・ 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
- ・ 直ちに医師に連絡すること。
- ・ 特別な処置が必要である。(詳細はSDS第4項応急措置を参照のこと)
- ・ 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
- ・ 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・ 暴露または暴露の懸念がある場合は医師の診断、手当てを受けること。

- 漏出物を回収すること。  
[保管]
- 施錠して保管すること。
- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
[廃棄物]
- 内容物／容器は、国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃すること。

#### 連絡先 (CONTACT INFORMATION WITHIN COMPANY)

会社名	三菱ケミカル株式会社
住所	東京都千代田区丸の内一丁目1番1号
担当部門・担当者	フェノール・ポリカーボネート事業部
電話番号／FAX番号	03-6748-7128／03-3286-1191

#### 発行・改訂日 (DATE OF ISSUE / REVISION) その他の情報 (ADDITIONAL INFORMATION)

初版：2017年 4月26日発行  
特記事項：2018年12月27日 第二版発行